



消費者庁資料

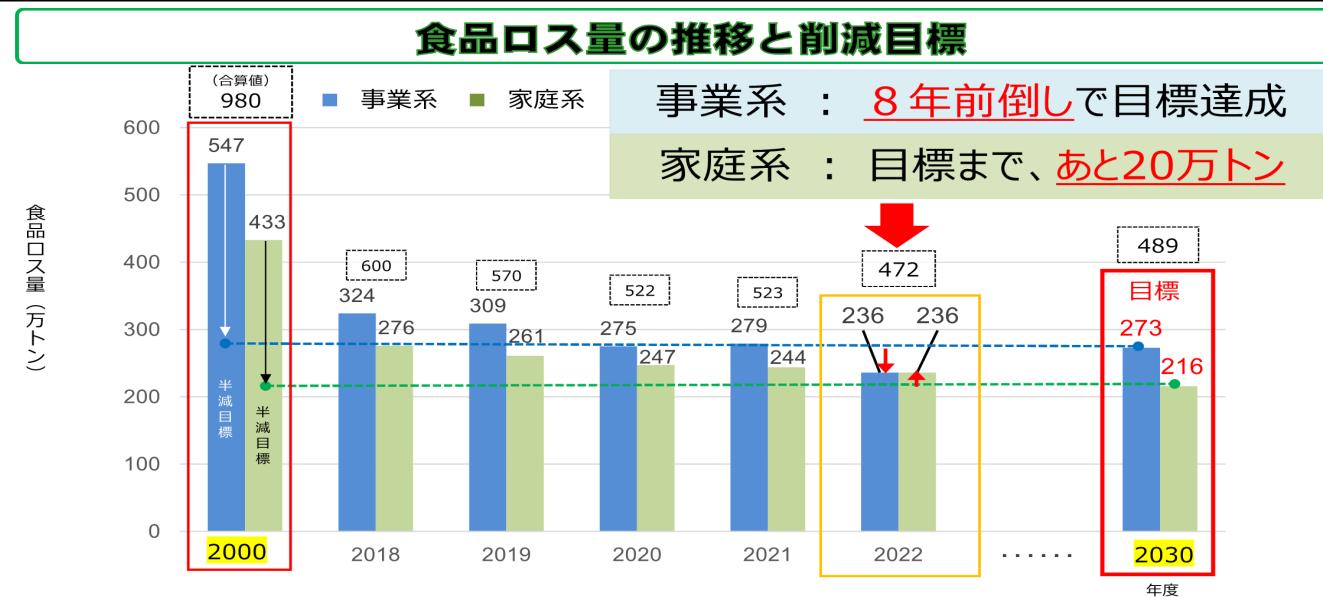
令和 6 年 9 月 10 日
消費者庁 消費者教育推進課

食品ロスの削減の推進の取組について



食品ロス削減に係る背景

- 2019年10月に施行された「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づき、2020年3月末に「**食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針**」を閣議決定。**事業系食品ロス及び家庭系食品ロスそれぞれで、2000年度比で2030年度までの半減目標を設定。**
- 直近（2022年度）の食品ロス量は着実に減少。特に**事業系食品ロスについては、半減目標（2030年度までに273万トン）を達成。家庭系食品ロスは半減目標（2030年度までに216万トン）まであと20万トン。**



「食の環（わ）」プロジェクトの取りまとめとその発信について

「食の環（わ）」プロジェクトについて

- 「食品ロス削減」や「食品寄附促進」に加え、「食品アクセスの確保」に向けた取組を関係府省庁や地方公共団体が縦割りに陥ることなく、一体的に取り組めるように、**食品ロス削減、食品寄附促進、食品アクセス確保の3つの施策を包括する概念**を食でつなぐ共生社会の実現に向けた「**食の環**」と呼ぶことについて、関係府省庁で申合せ。

今後の取組予定

- 今後、関係府省庁は、食品ロス削減・食品寄附促進・食品アクセス確保に関わる幅広い施策において、「食の環」プロジェクトの一環であることや、「食の環」共通のロゴマークを使用して、ワンボイスで発信する。（ロゴマークは、行政だけでなく、民間も利用可能）
- 「食の環」プロジェクト特設サイトを立ち上げ、「食の環」プロジェクトに関する関係府省庁の情報を集約する。
- 今後、本プロジェクトの成果の「見える化」を検討していく。

<「食の環」プロジェクトに向けた施策の全体像（概要）>

食品ロス削減	（食品の）経済的アクセス	（食品の）物理的アクセス
排出削減の取組 (公表・商慣習見直し・国民運動等)	食料提供に向けた体制づくり (地域の関係者が連携して取り組む協議会の設置等支援)	
食品寄附の促進 (期限表示、保険、DX)	食料提供に資する体制づくり (食料支援等を通じたつながり創出)	移動販売等の拠点となる施設整備
フードバンク・子ども食堂等を介した食品寄附への支援 (食品寄附ガイドライン作り、フードバンク・子ども食堂等の活動支援等)		店舗への交通手段の確保
食べ残し持ち帰り促進 (持ち帰りガイドライン作り)	フードバンク・子ども食堂等への食料提供 (備蓄米無償交付等)	移動販売等で店舗を届ける
		商品を届ける (ラストワンマイル配送支援等)
		食品アクセスの状況や対策事例等

「食の環（わ）」プロジェクトロゴマーク



「食の環」プロジェクトは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

関係府省庁による発出文書等において、左記のいずれかの「食の環」プロジェクトロゴマークを使用。また、一定の要件の下、民間団体等にもロゴマークの使用を認める。

食品ロスの削減の推進の取組について

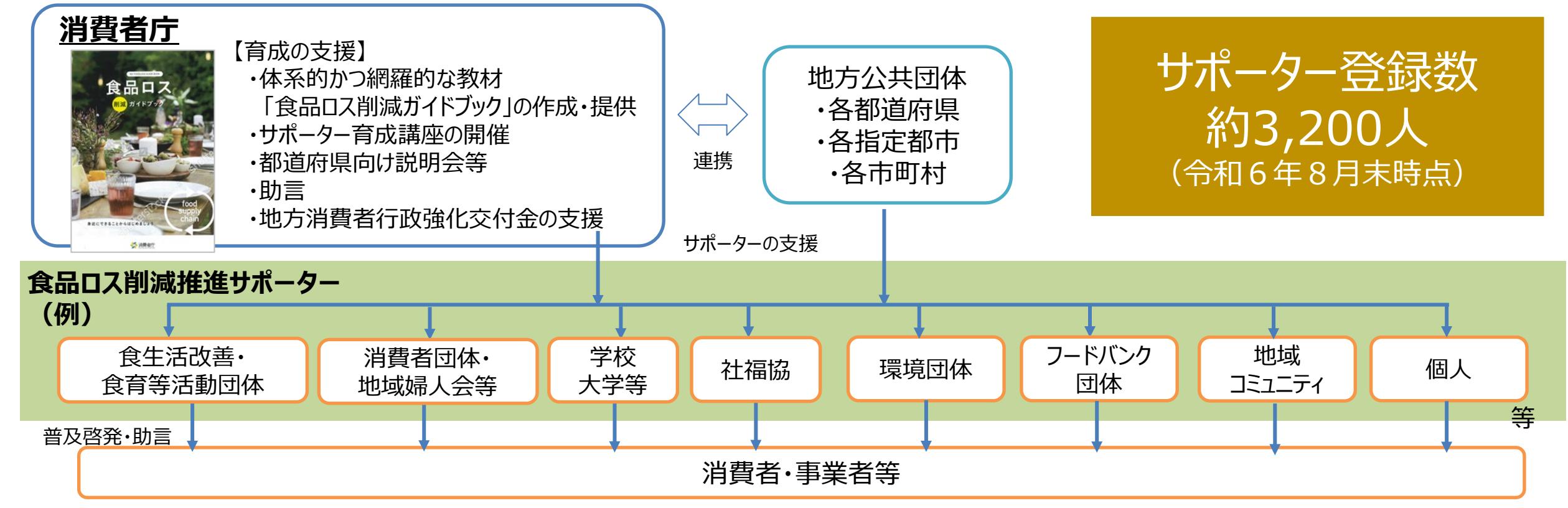


地域に根差した食品ロス削減を推進する人材の育成

食品ロス削減推進法の基本方針・基本的施策(抜粋)

- ・食品ロスの削減に向けて、国民各層がそれぞれの立場において主体的に課題に取り組み、社会全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくことが重要。
- ・**地域等において食品ロスの削減を担う人材を育成**するため、教材の開発、提供等を推進。⇒**消費者庁は「食品ロス削減ガイドブック」を作成**

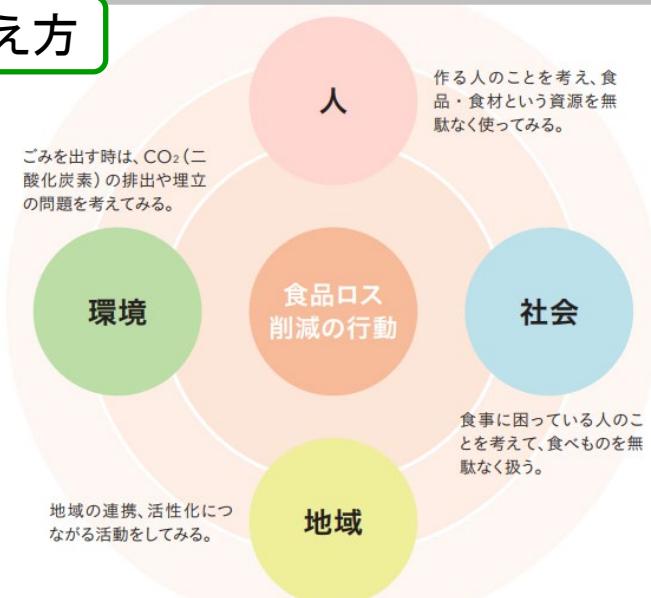
食品ロス削減推進サポーター育成の体制イメージ



環境や地域に配慮した考え方

食品ロスを削減は、環境にやさしく、人や社会等の配慮にもつながる消費行動。

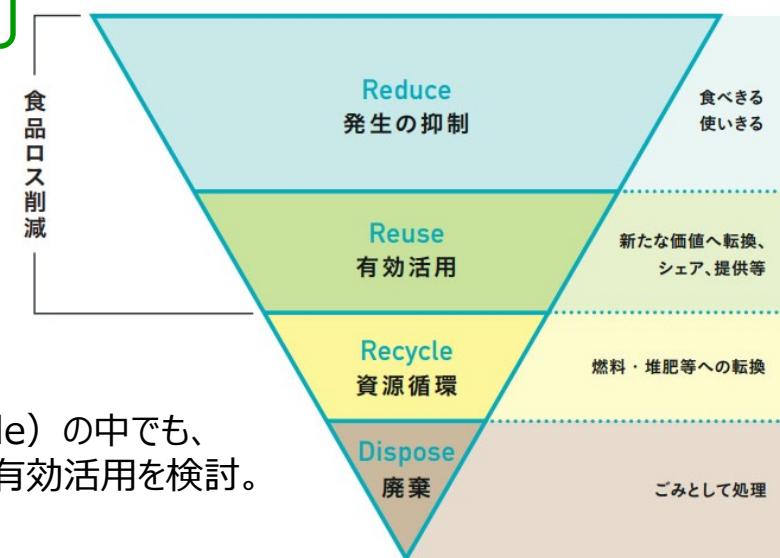
「今だけ」「ここだけ」「自分だけ」ではなく、将来のこと、地域のこと、周りの人のことも考えた消費行動を考える。



地域で連携した課題・対策

自治体や地域の企業が食品ロスの削減を行うときには、地域の特性や地域で発生する食品ロスの実態を踏まえ、関係者が連携して課題を明確化。

課題の明確化や対策の検討では、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の中でも、まず食品ロスの発生の抑制、次に有効活用を検討。



サステナブルファッションの普及・啓発

- **消費者庁は公正かつ持続可能な社会の形成に消費者が主体的に参画する社会構築のためエシカル消費[※]の普及啓発を実施**
 ※ 地域の活性化や雇用等を含む人や環境に配慮した消費行動
- **衣類の製造は原材料調達や染色等による水消費やCO2排出等の環境負荷が大きく、また、供給される衣服の9割が1年で手放され、その2/3が廃棄されている**
- **経済産業省、環境省とともに関係省庁連携会議において取組。消費者庁は消費者の行動変容に向けて有識者等と連携した情報発信を実施**

消費者行動18のヒント、事業者の取組動画等の公表

- 具体的な行動のヒントを伝えることで、行動する人の輪を広げる
- 消費者が実際の行動に移しやすくする仕掛けとして、ヒントに関連する事業者等の具体的取組事例のリンクを設定
- 事業者においても、サステナブルファッションの推進に向けた取組が進められており、その一例を紹介

消費者庁ウェブサイト「サステナブルファッション習慣のすすめ」ページ

関係省庁との連携 (サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議決定 (令和3年8月20日))

- 消費者庁、経済産業省、環境省の3省庁が連携し、生産・流通から廃棄・循環までの各段階に応じて、事業者及び消費者の双方に向けた取組を計画的に進めるとともに、制度面を含めた課題の整理・検討を行っていく。



SNS等を活用した情報発信

- サステナブルファッションに関心を持ち、実践する人の輪を広げるため、SNS等を活用し情報発信
- エシカル消費行動の活性化を促すため、プラットフォーム「オンラインコミュニティ」を設置し、消費者庁の取組みだけでなく消費者一人一人取組みを発信し共有
- 若年層への普及啓発を目的とし、令和5年3月にInstagram公式アカウント「消費者庁エシカル消費」を開設し、動画等を活用した情報発信を実施

著名人・有識者等と連携した情報発信

エシカルライフスタイルSDGsアンバサダー	
富永 愛 氏	モデル、国際協力NGOジョイセフアンバサダー
サステナブルファッション・パートナー	
剛力 彩芽 氏	俳優、モデル
サステナブルファッション・サポーター (令和5年6月現在9名)	
生駒 芳子 氏	VOGUE, ELLE元副編集長、マリ・クレール日本版・元編集長
eri 氏	DEPTカンパニー代表/アクティビスト
鎌田 安里紗 氏	一般社団法人unisteps共同代表
ガンバレーヤ まひる 氏・よしこ 氏	お笑い芸人
関 龍彦 氏	講談社FRaU編集長 兼 プロデューサー
向 千鶴 氏	WWDJAPAN編集統括サステナビリティ・ディレクター
村田 邦子 氏	kokoperi (アフリカ布作家)
レーザーラモンRG 氏	お笑い芸人

イベント開催 (オンライン配信含む)

啓発動画の作成

- 消費者全般に広くサステナブルファッションの必要性を知ってもらうために、「地球を変えるサステナブルファッション」動画を公開 (令和4年3月)
- ファッションに関連する問題や課題を伝え、ファッションにおけるサステナブルな考え方の必要性を訴求

食品ロス削減に関する地方公共団体の事例

大学生や障害福祉事業所と連携した災害備蓄食品のアップサイクル(京都府)

〈地域色あるアップサイクル製品の一例〉 チップス、チーズケーキ、ワッフル



京都府では、災害備蓄の役割を終えた賞味期限が迫る「アルファ化米」を活用した商品開発を、障害福祉事業所が受託する業務の共同受注窓口を担う特定非営利活動法人京都ほっとはあとセンターと連携し実施。本企画に参加した障害福祉事業所は、食品ロス削減と同時に施設利用者の工賃向上を図った。

消費者庁HP:「令和5年度地方公共団体における食品ロス削減の取組について〈事例紹介〉」

スクールフードドライブで寄附促進(札幌市)

〈スクールフードドライブの仕組み〉



◎開催目的①: 家族や仲間との食品ロスの削減
捨てられるはずの商品を社会の資源として有効活用し、ごみ減量活動を、家族や友だちと一緒に実践する。

◎開催目的②: 持続可能な経済活動への寄与
ごみ減量活動が、食のセーフティネットの構築にも影響し、尊厳のある社会づくりに貢献していることを実感する。

札幌市では、令和5年度ごみ減量実践事業で実際にスクールフードドライブを実施。「食品ロス」や「貧困」の社会課題に対して、学生が主体となって取り組み、ごみの減量や社会貢献に対する意識を醸成できるほか、家庭での会話や活動のきっかけづくり、地域コミュニティの形成などの効果も期待できる。



〈スクールフードドライブで集まった食品〉

サステナブルファッションに関する先進的なモデル事業(令和3年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業)

事業全体イメージ

パートナーシップでエシカル消費の推進活動
生産者・販売者・消費者を繋ぐ

中部エシカリングプロジェクト 事務局(株)新東通信



フェアトレード 名古屋ネットワーク
●令和2年度のモデル事業で構築したエシカル情報Webサイト「エシカリング」の進化発展活用

リデザインプロジェクト

- イベント「エシカル&フェアトレード・ファッションショー・トーク」
- イベント「エシカル&フェアトレード・ファッションショー/生産地中継トーク」
- 地域未利用繊維素材マテリアル・デジタルバンクの試行
- AIを活用したアプリ実証の継続活用
- 「SDGs AICHI EXPO 2021」への出展
- 衣料廃棄物削減CO₂算定
- リデザインプロジェクトのバリューチェーンを可視化した繋がりを体験する勉強会
- 一般消費者にエシカル消費を促す啓発活動
- 地域で開催されるイベントへの出展
- 地域の端材見学会

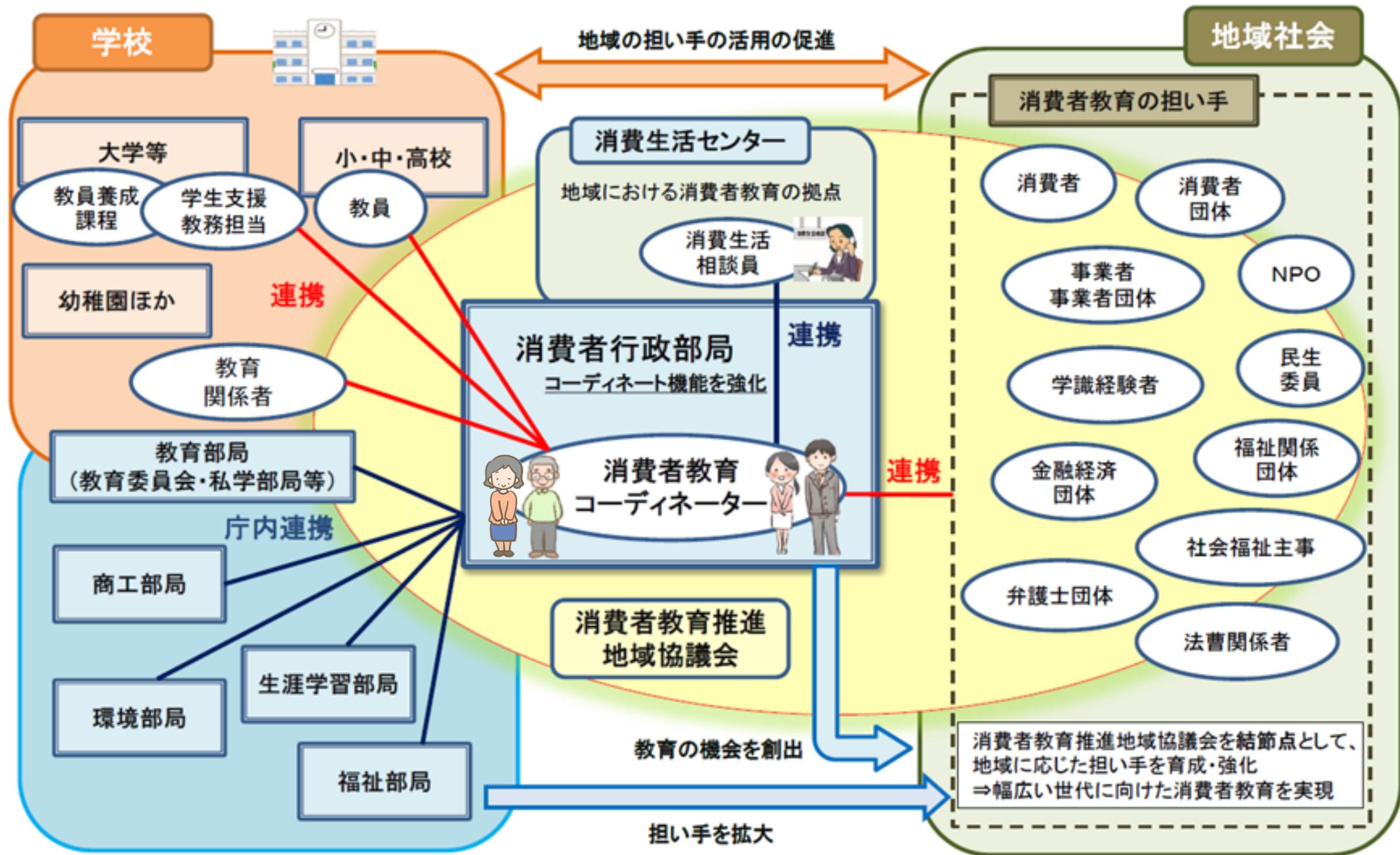
衣料におけるバリューチェーン全体での課題をエシカル消費啓発で解決する

尾張地方の繊維業で消費者が工場見学等により地場産業の歴史やサステナブルな取組を学び、未利用素材のアップサイクルによるファッションショーの実施等を通じ、持続可能な衣料に関わるバリューチェーン構築に繋げるモデル事業を実施

- 【消費者】・地域と消費の繋がりを考えるきっかけになった
- ・未利用素材の価値を感じた
- 【事業者】・地場産業の発展、雇用創出につながった
- ・取組を発信でき仕事の誇り、意欲になった

地域における消費者教育の推進イメージ

地域ごとに、多様な担い手が連携して、様々な機会を捉えて、消費者教育を実施



<出所> 地域における消費者教育の充実に向けた連携に関する分科会取りまとめ